

英米文学専修・立教英米文学会 活動報告

立教英米文学会

- 2019年12月21日 【講師】大西寿明（神戸市外国語大学英米学科准教授）
〈講演会〉 探偵に猛毒を—— *Strong Poison* における男性探偵像の解体
- 【講師】渡辺信二（山梨英和大学副学長・人間文化学部教授、立教大学名誉教授）
アメリカは夫婦愛から—— Anne Bradstreet, “To My Dear and Loving Husband” 再読

英米文学専修 HP について

英米文学専修では2007年7月にHPを開設いたしました。

卒業生からのメッセージや学会からのお知らせ、過去の紀要の目次や論文題目などが掲載されております。

アドレスは以下の通りです。多くの皆様からのアクセスをお待ちしております。

<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/dealcar/>

〈編集後記〉

『英米文学』第80号をお届けします。今号では、専任教員2名による研究論文をはじめとし、大学院生による3本の書評（対象書籍は本専任教員の著書および共著書）、2018年度卒業生による卒論3本を収録したほか、同年度立教英米文学会（2018年12月15日開催）における御講演2題の玉稿を御寄稿いただきました。

とりわけ、ご多用のなか詳細な講演録を御執筆くださった高橋和久先生には、深く感謝申し上げます。ここに活字化できたことで、探偵小説の誘惑の秘密が、改めてそして永年にわたって多くの読者にひらかれました。いま一本をお寄せくださった石川千暁氏は、本専攻の出身者です。我々とともに学んだ先に、留学を含んだ研鑽を積み、学位を取得し、他大学で教鞭を執るようになった研究者の話が聴くことができるのは、本専修・専攻の喜びです。

本誌が取める論考やエッセイが、この論叢に連なろうとする若い学生の興味を刺激することを願っています。単に「一英文科」の紀要ではありますが、年2号体制であった初期の号には優れた先達英学者たちの論文が並び、日米開戦から占領期（1941-51）にかけては休刊を余儀なくされたものの、1930年から90年間、都合83もの研究冊子が積み重ねられてきたのです。100号の節目もそう遠くないいま、これからどんな執筆者のどんな成果を世に問うことになっていくのか、本誌の未来に思いを馳せつつみずからの研究を省みているところです。

(け)